

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.2
平成27年4月22日

どの学年も張り切っています！

新年度がスタートして3週目に入りましたが、どの学年も張り切っています。1年生は、13日（月）の対面式では「ドキドキドン 1年生」という曲をしっかりと音をとって、大きな声で歌うことができました。

2年生は、20日（月）の湿気で汚れた廊下を、全員できれいに拭き取ってくれました。朝の会では、1分間スピーチの取り組みが始まり、クラスみんなに自分の思いを伝えようとがんばっています。

3年生は、リコーダー教室にきていただいた講師の方に、「エール」を熱唱して感謝の気持ちを伝えました。

4年生は、運動場が近くなり、放課になると元気一杯遊んでいます。清掃の時間には心を込めて丁寧にやっています。

5年生は、体育の時間に運動場を走る姿を見ますと、運動面においても高学年でのやる気を感じます。野外教室の準備も着々と進めています。

6年生は、最高学年としての自覚とやる気を様々な場面で見せています。通学団・給食・清掃での1年生への温かい配慮、全校合唱時の気持ちを込めた歌声など、頼もしさを感じます。

PTA総会の話より（4/20）

失礼します。桜小学校で5年目を迎えます校長の平野 隆雄と申します。どうぞよろしく申し上げます。日頃は、本校の教育にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

桜小学校は、児童数は411名、1年生が3学級となり、昨年度より1学級多い、15学級でスタートしています。4月6日の入学式、4月7日の始業式から2週間程経ちますが、どの学年・学級も落ち着いております。

昨年度の学校評価をみると、どの項目も昨年度より改善され、高評価が出ています。また、昨年度1年間の子どもの様子を見ていると、学級や通学団でのトラブルはほとんどなく、非常に家族的で平和な学校です。校庭では、学年の枠を超えて楽しく遊ぶ、微笑ましい光景がよく見られます。困っている人に援助の手を差し伸べたり、人に対して気遣いの言動ができる児童が増えてきました。

道徳の研究を進めて2年がたちますが、思いやりの心を育てる道徳教育の教育の成果が着実に表れてきたものと考えています。

今年度の学校経営の三原則を、次の三つに考えています。

一つ目は、「学校は美しくなければならない」

教育環境が整い、美しく、安全・安心な学校を目指していきます。

清掃が行き届いているということは、教育が行き届いていると考えられます。 また、「清掃は、人生の答案だ。自分がどれくらいのしろものであるかを示す人間の答案だ」という言葉があります。師弟同行の精神で、教師も子ども達と一緒に取り組む、心を磨く清掃を目指していきます。

二つ目は、「わかる喜びが味わえる学校でなければならない」

東井義雄先生は、「3と3が6であることを、感動をもって分からせる授業をしようと思ったら、3と3は5だとつまずく子を大切にすることだ」と教えてくれています。一人一人を大切に、丁寧な指導を進めていきます。

三つ目は、「学校は秩序がなければならない」

学校・学級のルールを守りきり、規範意識の高い児童、集団をつくっていきます。教師の指導・指示が確実に通る集団、自分のことだけでなく、互いの立場や意見を尊重し全体のことを考えた言動がとれる児童・集団を創っていきます。

そして、他に対する温かい思いやりの言動（桜っ子しぐさ）があふれる学校を築いていけるように、「心の教育」を全教育活動の中で推進していきます。

以上、今年度も、「さらに学校の質を高め、児童・教職員、保護者・地域の皆が真に誇れる学校の創造を目指していきたいと考えています。」